

第7回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和3年1月12日(火) 午後2時00分～午後4時10分
- 開催場所 富良野文化会館 大会議室
- 出席者 <委員>北会長、荒木委員、菊地委員、山崎省委員、倉西委員、藤田委員、平間委員、小玉委員、遠藤委員、吉中委員、飯沼委員、黒木委員、山崎留委員、岩井委員
 - ※オンライン参加者 加茂委員、松村委員、(現地14名、オンライン2名、計16名)
 - ※欠席委員 石川委員、柿崎委員、吉本委員、林委員 (計4名)
- <事務局>稲葉総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長、川上経済部長、小野建設水道部長、亀淵教育部長、藤野財政課長、関澤企画振興課長、入交企画振興係長
- <受託事業者>フラノデザイン(株) 中村、大曾根

1. 開会(午後2時00分)

- ・事務局より、欠席者、オンライン参加者について報告

2. 市長挨拶

- ・総合計画策定も大詰めを迎えており、庁内の中でも議論しておりますが、総合戦略の核心を捉え、心構えを持って進めていく必要があります。
- ・委員の皆様にご協力をいただきながら、着実に前へ進んでいく一年にしたいと思います。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

3. 議題

【北会長】

- ・議事に移りますが、有識者会議は、フラノデザイン株式会社にコーディネートをお願いしておりますので、よろしくお願いします。

(1) 人口ビジョンについて

※資料「人口ビジョン」について、ポイントをフラノデザインより説明。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・人口ビジョンについて、ご意見等があればお願いします。

【荒木委員】

- ・どのくらい転出超過を抑えるのか、具体的な数値のKPIが必要ではないか。純移動率8.3%上昇がKPIではないのではないか。
- ・富良野市独自推計が2015年社人研予測よりも下回っているのに、そこに戻すことは人口ビジョンとして絵にかいた餅ではないか。
- ・富良野市独自推計から1%なり、2%を上げるKPIにし、そのために何をしなければいけないかが必要ではないか。もし、純移動率8.3%上昇させるのであれば、今回の施策がそれを目指しているとは思えない。
- ・人口ビジョンや数値目標(KPI)は、理想ではなく、地に足がついたもので頑張れば達成できるものである必要がある。
- ・総合計画の中に人口ビジョン達成のためにというキーワードがない。人口ビジョンを達成するための施策をまとめる必要がある。
- ・人口ビジョンは、達成すべきものなのか、希望的観測なのか。
- ・人口ビジョンでKPIを作るのであれば、出生率ではなく出生数を設定する必要がある。また、生産年齢人口を何%くらいの減少に抑えるのか設定する必要がある。

【北会長】

- ・人口ビジョンにKPIが当てはまるのかは、委員皆様との議論が必要である。
- ・個人の考えとしては、今後10年間の総合計画ですので、人口ビジョンは目標値として捉えることになると感じている。
- ・人口ビジョンをもとにして、20代から40代の転出超過を抑えるために総合戦略等

で取り組んでいくことになる。

【荒木委員】

- ・人口ビジョンが希望的観測ならば、達成は不可能であり、人口ビジョンそのものがないのではないかと。
- ・人口ビジョンと総合戦略がリンクすることで、実現可能な数値に向かって施策を取り組んでいく必要があり、ある程度の数値目標がなければ、ズルズルと悪化していくだけではないかと。

【北会長】

- ・人口ビジョンは、今後どのように推移していくかのデータであって、それを改善するための施策を盛り込んでいくのが総合計画である。
- ・人口ビジョンの目標値をどこに設定するかは議論が必要かと思う。

【荒木委員】

- ・他自治体において、人口ビジョンで大きな目標を立てて駄目だった自治体、小さな目標を立てて着実に実施した自治体がある。
- ・人口ビジョンで掲げた目標と違ったときにどういった対応をとるのか。今の内容だとすぐに修正することになるのではないかと。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・人口ビジョンの将来展望人口は、庁内プロジェクトチームの中では、人口は目指すというよりは結果としての人口として取り扱ってきています。
- ・その中で人口のメカニズムを理解し、どこに手を打っていくかを明確にしていく必要があり、20代から40代に焦点を絞り転出超過を抑えていくために、他自治体の純移動率を参考に見たとき、ターゲットに対して重点的な施策を打てば純移動率8.3%上昇は決して不可能な数値ではないのではないかと、という議論がありました。
- ・決して簡単に達成できる数値ではなく、難しいことと思いますので、どうやったら達成できるかは検証をしながら進めていく必要があると考えています。

【荒木委員】

- ・他自治体と比較しても、富良野市が取り組んでいることは少ないと感じているので、どういった施策が必要か明確にしていく必要があるのではないかと。
- ・それが、総合計画と人口ビジョンをリンクさせたことになるのではないかと。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・人口ビジョンを実現していくためのものとして、どう展開していくかは持ち帰り議論していき、反映できるところは反映していきたいとします。

【山崎留委員】

- ・今回の人口ビジョン等は市民が目に触れるものとなるのか。
- ・西暦と和暦が混同していたり、市民に見やすい形に整理する必要がある。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・今回の資料そのものが、パブリックコメント手続きの資料となる。
- ・見やすさは最終的な調整の中で対応していきたい。

(2) 総合計画に係る重点施策（総合戦略）について

※資料「前期基本計画 重点施策」について、ポイントをフラノデザインより説明。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策はこれまでも議論をいただいているところですが、全体を通してご意見等があればお願いします。

【岩井委員】

- ・34ページのKPIに「保育所の待機児童数」があるが、現状の数値をどのように捉えているのか。

【亀淵教育部長】

- ・子ども未来課が、実態として把握している数値である。

【岩井委員】

- ・保育所の入所に対して、母親の育児休暇の状況で潜在的に入れにくい子や預ける期間としてのタイミングなど、保育所のシステムとして矛盾がある気がするので、検討が必要ではないか。

【亀淵教育部長】

- ・新型コロナウイルスや保育無償化等の影響で待機児童数が増える状況となっているので、認可保育所の受入体制について検討しているところである。

【飯沼委員】

- ・「富良野ならではの子育て環境づくり」について、本当に富良野“ならではの”子育て環境があるのか。“ならではの”と胸を張って言えるような内容が必要ではないか。
- ・総合計画と個別計画がつながっていき、実行できる計画になってほしい。

【荒木委員】

- ・富良野“ならではの”子育て環境を作るのであれば、お母さん達が富良野にいたいと思う施策をすべてやることではないか。20代から40代の子育て世代の不平不満をすべてかなえることではないか。
- ・26ページの「計画の構成」で、KPIは施策を客観的に判断できるようにとあるが、具体的に明確に判断できるKPIとするべきではないか。
- ・26ページの「計画の検証方法」で、効果の検証は“施策の見直しや変更を協議”ではなく、“施策の見直しや変更を行います”ではないか。
- ・26ページの「計画の財源」で、“体制強化を検討します”ではなく、“体制強化を図り、自主財源の獲得に努めます”ではないか。
- ・37ページの介護認定率の文章で“望ましいと考えられます”とあるが、“必要となります”ではないか。
- ・38ページに健康マイレージのKPIがあるが、65ページに健康マイレージに関する記載がない。重点施策に書かれていることが基本施策に書かれていないのはいいか。
- ・40ページの関係人口の記載については、ワーケーションだけでなく、言葉として今後必要なのはテレワークオフィス、リモート会議室、シェアオフィス、コワーキングスペース、ワーケーションオフィス、ワーケーションハウス、シェアハウス等を入れ、見える形にした方がもっと具体的になるのではないか。
- ・44ページの主な施策に“季節雇用者の通年雇用による所得の安定”とあるが、所得の平均値を上げるためには、通常の通年雇用者の所得向上も考えなくてはいいか。

【関澤企画振興課長】

- ・38ページの健康マイレージは、65ページでは“個人のインセンティブ”という表現になっている。

【荒木委員】

- ・市民に分かってもらうためには、重点施策と基本施策の内容がつながっていかないといけない。
- ・基本施策の「施策の展開方向」に“検討します”との表現があるが、施策によって書きぶり違うので、“行います”という表現に統一していく必要があるのではないか。

【関澤企画振興課長】

- ・文言の表現について、調整させていただきます。

【飯沼委員】

- ・計画に“検討します”と書いてあった場合は、やらないと理解している。
- ・計画の中では“やります”であってほしい。できなかった時は理由があると思うので、計画策定の際は前向きな表現に統一してほしい。

【荒木委員】

- ・41 ページの中段や 43 ページの下段に“求められています”とあるが、“必要です”ではないか。
- ・52 ページの KPI の目標が空欄となっているので、入れるべきである。

【関澤企画振興課長】

- ・空欄の部分は内容を確認し、整理します。
- ・言い回しの部分も、統一感も持って整理させていただきます。

【岩井委員】

- ・34 ページの子育ての KPI で満足度を上げることと、人口ビジョンの子育て世代の転出超過を抑えることは、大きな意味合いがある。
- ・満足度を 16.5%から 80%に上げることは大変であり、他市町村に比べ、富良野市は子ども医療費の面で遅れており、人口の流出を防ぐことは難しいと感じる。
- ・満足度が 80%になるには、お母さんたち誰に聞いても富良野市は子育てしやすい状態になっていないと目標達成は厳しいのではないか。
- ・そこで満足度を上げるためには、子ども医療費補助は避けて通れない問題だと思うので、どうしたら実現できるかの視点で検討してもらいたい。

【関澤企画振興課長】

- ・子ども医療費補助の部分は事業レベルとなりますので、重点施策の中で具体的な記載にはなっていない。
- ・ご意見としてはこの間もいただいておりますので、子育て世代への経済的支援全体の中で検討させていただきます。

【黒木委員】

- ・富良野“ならでは”の子育てとするのであれば、他市町村との違いが必要ではないか。例えば、子育て応援都市宣言、男性が子育てしやすい環境を整備、町全体で子育てするような状態など、強いインパクトがあっても良いのではないか。

【山崎留委員】

- ・子育てに関して、重点施策や基本施策に“します”まで行かなくても、希望や方向性などでも記載してほしい。

【荒木委員】

- ・子ども医療費補助を行うのであれば、基本施策に書き込めば良いのではないか。

【飯沼委員】

- ・総合計画と個別計画がリンクするときに、期間が連動し、検証システムが機能する形であってほしい。
- ・人、一人一人を大事にする施策があれば、人に優しい町になると感じている。

【荒木委員】

- ・42 ページのアイデア数の KPI は、目標が R4 からではなく、R3 からではないのか。創業支援活用件数は年間としての目標ではないのか。
- ・44 ページのメイドインフラノや地域経済循環率の KPI は、目標が低すぎるのではないか。

【岩井委員】

- ・40 ページの KPI の現状にワーケーション受入実証とあるが、現在の状況を教えてほしい。どのくらいの滞在日数なのか。

【関澤企画振興課長】

- ・ワーケーション受入実証は業務委託により進めており、訪問企業に対し受入環境等の意見交換を行っているところである。
- ・受入実証の企業数等は、今は持ち合わせておりませんが、滞在日数は 3 日間から 1 週間程度である。

【荒木委員】

- ・民間の宿泊施設でも首都圏企業と契約し、ワーケーション受入を行っている。

【倉西委員】

- ・各金融機関でも市町村と連携して、ワーケーションを進める動きがある。
- ・ワーケーションを如何に定着させていくかが重要であり、観光プロモーションと併せて行っていく必要がある。

【松村委員】

- ・43 ページで、付加価値向上のための「モノ」「コト」のデザイン力の向上を挙げてはどうか。KPIは、例えばグッドデザインへの応募数、認定数など。今回の計画づくりを通じて、フラノデザインの参画によりデザインの力の重要性が明らかになったと考えます。

【荒木委員】

- ・フラノマルシェを運営していて、デザイン力のなさを実感している。

【松村委員】

- ・重要なのは、目に見える「モノ」に加え、「コト」のデザインも重要視することである。
- ・この手の計画はできることしか掲げないという傾向がありますが、難しいけどチャレンジする項目があって良いと考えます。そこで、KPIの項目で達成困難度を見えるかすることを提案します。

【荒木委員】

- ・89 ページで立地適正化計画のスタートがR5からとなっているが前倒しするべきではないか。併せて、国は防災指針の策定を求めているが97 ページに記載がない。
- ・基本施策が着実に取り組む施策であるのであれば“努めます”“検討します”の表現は訂正すべきではないか。

【小野建設水道部長】

- ・立地適正化計画は、令和3年度から策定作業を進めるが、防災指針を盛り込むことになるので単年度では難しく、2カ年での策定となる。

【菊地委員】

- ・前期基本計画が2年間なので、重点施策のKPIも2年後の目標値を設定できるものは示す必要があるのではないか。

【山崎留委員】

- ・28 ページの好循環モデルの図が、以前出ていた意見が反映されていない。
- ・人口ビジョンのところでも言った内容ですが、西暦と和暦が混同しているところがあるので統一する必要がある。

【吉中委員】

- ・検証するためにも目標年度毎のKPIは必要ではないか。
- ・市民に理解してもらうための工夫も必要ではないか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・貴重なご意見等ありがとうございました。
- ・今回の資料は、パブリックコメント手続きを通じて市民からも意見を集める形になります。
- ・今回の意見とパブリックコメントの意見を踏まえものを、次回の有識者会議に共有したいと思います。また、今回は内容共有のほか、総合計画を良い形でスタートできるようなディスカッションをしたいと考えています。

【北会長】

- ・本日の長時間にわたるご議論、ご検討ありがとうございました。

4. その他

【荒木委員】

- ・富良野が若い世代に知られていない現状を共有する中で、皆さんと今後議論していただけたらと考えています。

【黒木委員】

- ・総合計画と関係ないかも知れませんが、外国人の土地取得に不安を感じている人がいるので、今後どこかで検討してもらえたらと思います。

【北会長】

- ・外国人の土地売買を止める手段は、国や北海道も含め持ち合わせていない状況であり、もしできるとすれば地権者がどういった対応してくれるかを期待するところである。また、土地取得後は様々な届出があるので、富良野市のまちづくりに沿った形で協力をいただくことになる。

5. 今後の予定

- ・今後の有識者会議日程について事務局より説明

6. 閉会（午後4時10分）

【北会長】

- ・総合計画の基本に共創がありますが、取り組みを実践していくには市民の参加、協力が必要となりますので、改めて委員皆様の認識をいただき、次回の有識者会議に臨んでいただきたいと思います。
- ・年明け早々の会議にご出席をいただき、ご意見をいただいたことに感謝申し上げます。